

製品名: PI 3 キナーゼ p110 デルタ (1X2) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16093**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	119kDa

抗原情報

遺伝子名	PIK3CD
別名	APDS; GRB1; IMD14; p110dp85a; p85-ALPHA; Phosphoinositide 3 kinase B; Phosphoinositide 3 kinase C; p37delta; PI3 kinase p110 subunit delta; PI3Kdelta; Pik3cd; PIK3R1; PK3CD; PtdIns 3 kinase p110;
遺伝子 ID	5293.0
SwissProt ID	O00329
免疫原	ヒト PI3 キナーゼ p110 デルタの合成ペプチド

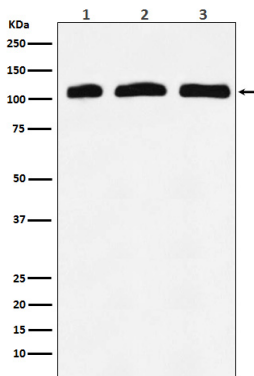
背景

AKT1 や PDK1 などの PH ドメイン含有タンパク質を膜にリクルートすることで重要な役割を果たし、細胞の成長、生存、増殖、運動性、形態形成に関わるシグナル伝達カスケードを活性化します。免疫応答を媒介します。B 細胞の発達、増殖、遊走、機能にも関与します。B 細胞受容体 (BCR) シグナル伝達に必須です。ホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3K) は、ホスファチジルイノシトール (PI) とそのリン酸化誘導体をイノシトール環の 3 位でリン酸化して、3-ホスホイノシチドを生成します (PubMed:9235916)。ATP と PtdIns(4,5)P2 (ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸) を使用して、ホスファチジルイノシトール 3,4,5-トリスリン酸 (PIP3) (PubMed:15135396) を生成します。PIP3 は、AKT1 や PDK1 などの PH ドメイン含有タンパク質を膜にリクルートすることで、細胞の成長、生存、増殖、運動性、形態に関与するシグナル伝達カスケードを活性化することで重要な役割を果たします。免疫応答を媒介します。B 細胞の発達、増殖、遊走、および機能に役割を果たします。B 細胞受容体 (BCR) シグナル伝達に必要です。抗 IgM、抗 CD40、および IL4 刺激に対する B 細胞増殖応答を媒介します。TLR4 および TLR9 に応答してサイトカイン産生を促進します。TLR9 を介した抗体クラススイッチに必要です。B 細胞の抗原提示機能に関与しています。CXCL13 およびスフィンゴシン 1-リン酸 (S1P) に応答して B 細胞の走化性に関与する。ナイーブ T 細胞、エフェクター T 細胞およびメモリー T 細胞の増殖、シグナル伝達、サイトカイン産生に必要。T 細胞受容体 (TCR) シグナル伝達に必要。免疫シナプスで TCR シグナル伝達イベントを媒介する。TCR による活性化は、抗原依存性メモリー T 細胞の移動および抗原組織への滞留を引き起こす。PIK3CG とともに、T 細胞の発達に関与する。ヘルパー T 細胞の増殖および分化に寄与する。ホーミング受容体 SELL/CD62L、CCR7、および S1PR1 が媒介する T 細胞の移動および抗原依存性 T 細胞のリクルートメントに必要。PIK3CG とともに、ナチュラルキラー (NK) 細胞の発達および炎症部位への移動に関与する。NK 細胞受容体の活性化に関与 PIK3CG と共に、好中球の走化性および血管外遊出に関与する。PIK3CG と共に、好中球の呼吸バーストにも関与する。マスト細胞の発達およびマスト細胞を介したアレルギー反応において重要な役割を果たす。幹細胞因子 (SCF) を介した増殖、接着、および遊走に関与する。アレルギー IgE 誘導性の脱顆粒およびサイトカイン放出に必須である。その生物学的機能には脂質キナーゼ活性が必要である。アイソフォーム 2 は、総 RAS レベルの安定化に関与し、ERK リン酸化および PI3K 活性の上昇をもたらす可能性がある。

研究分野

イノシトールリン酸代謝、ErbB_HER、ケモカイン、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、mTOR、アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、VEGF、接着斑、Toll 様、Jak_STAT、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、T 細胞受容体、B 細胞抗原、Fc イブシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食、白血球の内皮透過性遊走、神経栄養因子、アクチンと細胞骨格の調節、インスリン受容体、プロゲステロンを介した卵母細胞成熟、II 型糖尿病、アルドステロンを介したナトリウム再吸収、がんの経路、大腸がん、腎細胞がん、膵臓がん、子宮内膜がん、神経膠腫、前立腺がん;黒色腫;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

画像データ



(1) K562 細胞溶解物、(2) RAW264 細胞溶解物、(3) ラット腎臓溶解物における PI3 キナーゼ p110 デルタ発現のウエスタンブロット分析。